

Maria & Sepp Muster

マリア・ウント・セップ・ムスター



醸造所は急斜面のぶどう畑と森に囲まれた丘の上にある。斜面の下に向かって並び、栗材の支柱の間の約1.8mの高さに渡された、一本の針金からぶどうの枝葉がわざわざ垂れ下がる独特の仕立て方で、年間降水量約1000mmを超えるこの地方に向けた伝統的な栽培手法だと、オーナーのセップ・ムスターは言う。彼の両親が約300年前からそこにあった、約10haのぶどう畑と建物を購入したのは1978年のこと。クロスター・ノイブルクの醸造学校を卒業した1990年から実家で働き始めたムスターは、1994年に自動車事故で生死の境をさまよう体験をして人生観が変わった。生きることを考えるようになり、1998年に休暇で妻とともに訪れたインドで、ニュージーランド出身のジオディナミのコンサルタント、ペーター・プロクターのセミナーに参加して感銘を受け、2003年にデメターに加盟した。そして醸造も2003年産から樽熟成期間を20~24カ月に伸ばし、ワインが自然に調和に至るまで見守るようになった。亜硫酸無添加で発酵・熟成の微生物的プロセスを完了するために、健全で生命力に富んだぶどうを収穫することが何よりも大切なのだという。压榨後の清澄も瓶詰め前のフィルターがけもおこなわない。果汁から何かを取り去ることは、ワインの調和を乱すからだ。亜硫酸は添加しないことが多い。栽培品種はソーヴィニオン・ブラン、シャルドネ、ブラウフレンキッシュ。土壌は主にオーポク。美味しいかどうかよりも、飲んだ人の昔の記憶が蘇るようなワインを目指しているという。

各キュヴェはそれぞれの、畑の個性、ブドウや醸造の特徴毎の名前を関する。

オーポク：この地域特有の石灰と粘土シルトで、このワイナリーの土壌は基本的にはオーポク土壌に属する。樹齢の若いブドウが使用される。

グラーフ：「伯爵」を意味するドイツ語で、セップがワインを造り始めた当初から使われている、ワイン名。オーポクシリーズより、樹齢が高いゆえの気品を持ち合わせる。

スガミネック：斜面の上の方の畑で、粘土層も薄く、石の多い純粋なオーポクの区画。

樹齢も高く、葉の茂る時期になると、土壌の違いは一目瞭然で、スガミネックの畑の葉はより明るい色をしている。

2015	2014年とは違い通常の雨量。雹害がひどく、収量は少なかった。	
2014	大雨、病気、獣害、セップの醸造人生の中でも最も難しい年。アルコール度数が10%前後のものもある。	
2013	他の地域とは違い、雨量は通常。8月に、雨がほとんど降らなかったが、特に問題は無し。	
2012	雨量も通常で、収量も通常の良年。	
	○Welschriesling vom Opok ヴェルシュリースリング フォム オーポク	
畑	品種：ヴェルシュリースリング100% 植樹：2001年 位置：標高430~460m、東向き 土壌：石灰と粘土シルト	醸造 木樽で醗酵。 木樽で15カ月熟成。
備考	この地域特有の石灰質土壌「オーポク」土壌由来。 2015はAlc. 11.0%, Total SO2 10mg/l以下	
	○Opok オーポク	
畑	品種：ヴェルシュリースリング40%、モリヨン40%、ゲルバー・ムスカテラー20%、ソーヴィニオン・ブラン20% 植樹：1983~2002年 位置：標高430~480m 土壌：石灰と粘土シルト	醸造 木樽で醗酵。 木樽で23カ月熟成。
備考	この地域特有の石灰質土壌「オーポク」土壌由来。 2016はAlc. 10.6%, Total SO2 10mg/l.	
	○Morillon vom Opok モリヨン フォム オーポク	
畑	品種：モリヨン 植樹：1984年 位置：標高430~440m、西向き 土壌：石灰と粘土シルト	醸造 木樽で醗酵。 木樽で22カ月熟成。
備考	この地域特有の石灰質土壌「オーポク」土壌由来。	

Maria & Sepp Muster
マリア・ウント・セップ・ムスター



○Gelber Muskateller vom Opok ゲルバー・ムスカテラー フォム オーポク		備考	この地域特有の石灰質土壌「オーポク」土壌由来。
畑	品種：ゲルバー・ムスカテラー 植樹：1990年代 位置：釜状の地形をした最大斜度70%にも達する急斜面 土壌：泥灰岩から成る粘土質のシルト		
○Sauvignon vom Opok ソーヴィニヨン フォム オーポク		備考	この地域特有の石灰質土壌「オーポク」土壌由来。 2016はAlc.11.2%, Total SO2 10mg/l以下。
畑	品種：ソーヴィニヨン・ブラン 植樹：2002年 土壌：標高430~450m、粘土シルト、畑の下部1/3に位置する急こう配の箇所		
○Graf Morillon グラフ モリヨン		備考	「伯爵」を意味するドイツ語で、セップがワインを造り始めた当初から使われている、ワイン名。オーポクシリーズより、樹齢が高いゆえの気品を持ち合わせる。 2014はAlc. 10.6%, Total SO2 10mg/l以下
畑	品種：モリヨン(シャルドネ) 植樹：1984年 位置：西向き 土壌：標高440~450m、石灰と粘土シルト、オーポクよりも岩石が多い。畑の中腹にある急こう配の箇所。		
○Graf Sauvignon グラフ ソーヴィニヨン		備考	「伯爵」を意味するドイツ語で、セップがワインを造り始めた当初から使われている、ワイン名。オーポクシリーズより、樹齢が高いゆえの気品を持ち合わせる。 2015はAlc. 13.6%, Total SO2 10mg/l以下
畑	品種：ソーヴィニヨン・ブラン 植樹：1984年 位置：南西・南・南東向き 土壌：石灰と粘土シルト、オーポクよりも岩石が多い。畑の中腹にある急こう配の箇所。		
○Graf Sauvignon Spätfüllung グラフ ソーヴィニヨン シュペートフルング (5年樽熟成)		備考	「伯爵」を意味するドイツ語で、セップがワインを造り始めた当初から使われている、ワイン名。オーポクシリーズより、樹齢が高いゆえの気品を持ち合わせる。通常よりも時間をかけて樽内で醗酵が進んだ特別キュヴェ。 2011 SpätfüllungはAlc. 14.4%, Total SO2 10mg/l.
畑	品種：ソーヴィニヨン・ブラン 植樹：1984年 位置：南西・南・南東向き 土壌：石灰と粘土シルト、オーポクよりも岩石が多い。畑の中腹にある急こう配の箇所。		

Maria & Sepp Muster

マリア・ウント・セップ・ムスター



	○Gräfin グレーフィン			備考	マセレーションをすることで、通常の白ワインではもちえない、骨格とアロマを持つ。 2015はAlc. 13.2%, Total SO2 10mg/l以下
	畑	品種：ソーヴィニヨン・ブラン 植樹：2002年 位置：標高430~480m、南、東向き 土壌：石灰と粘土シルト、オーポクよりも岩石が多い。畑の中腹にある急こう配の箇所。	醸造		
	○Erde エーアデ			備考	マセレーションをすることで、通常の白ワインではもちえない、骨格とアロマを持つ。 2015はAlc. 12.9%, Total SO2 10mg/l以下
	畑	品種：ソーヴィニヨン・ブラン、シャルドネ 植樹：1990年代、 位置：430~470m 土壌：石灰質を含む粘土に近いシルト質の泥灰岩を含むオーポクの岩石土壌	醸造		
	○Sgaminegg スガミネック			備考	Sgamineggと呼ばれる、岩石の多い土壌。 2015はAlc. 13.6%, Total SO2 16mg/l
	畑	品種：ソーヴィニヨン・ブラン、シャルドネ 植樹：1984~1986年 位置：標高430~470m 土壌：石灰質を含む粘土に近いシルト質の泥灰岩を含むオーポクの岩石土壌	醸造		
	●Schilcher シルヒャー			備考	シルヒャーという名前はスティリアにあるブラウアー・ヴィルトバッハー（品種）のロゼワインの名前からきている。
	畑	品種：ブラウアー・ヴィルトバッハー 植樹：1983年 位置：標高430~450m、東向き 土壌：粘土シルト、畑の下部1/3に位置する急こう配の箇所	醸造		
	●Rosé vom Opok ロゼ フォム オーポク			備考	この地域特有の石灰質土壌「オーポク」土壌由来。 果実の完熟が難しかった、2014年に実験的に造られた。以降のVTも造られている。 2016はAlc. 11.4%, Total SO2 10mg/l以下
	畑	品種：ヴァイゲルト、ブラウフレンキッシュ、ブラウアー・ヴィルトバッハー 植樹：1983年 位置：標高430 - 450m、東向き 土壌：粘土質シルト、斜面の下の方	醸造		

Maria & Sepp Muster
マリア・ウント・セップ・ムスター



	● Zweigelt ツヴァイゲルト			備考	2013はAlc. 12.1%, Total SO2 10mg/l以下
	畑	品種：ツヴァイゲルト100% 植樹：1983年 位置：標高430~450m、東向き 土壌：粘土シルト、畑の下部1/3に位置する急こう配の箇所	醸造		
	● Rotwein ロートヴァイン			備考	ワイナリーで栽培される3種の赤品種のブレンド。短いマセレーションで、親しみやすい果実味が特徴。 2013はAlc. 11.5%, Total SO2 10mg/l以下
	畑	品種：ツヴァイゲルト、ブラウフレンキッシュ、ブラウアー・ヴィルトバッハー 植樹：1983年 位置：釜状の地形をした最大斜度70%にも達する急斜面 土壌：泥灰岩から成る粘土質のシルト	醸造		
	● Graf Zweigelt グラーフ ツヴァイゲルト			備考	「伯爵」を意味するドイツ語で、セップがワインを造り始めた当初から使われている、ワイン名。オーボクシリーズより、樹齢が高いゆえの気品を持ち合わせる。 2013はAlc. 12.5%, Total SO2 10mg/l以下
	畑	品種：ツヴァイゲルト100% 植樹：1983年 位置：南西・南・南東向きの斜面 土壌：石灰質を含む粘土に近いシルト質の泥灰岩を含むオーボクの岩石土壌	醸造		